

令和5年度 江戸川区立松本小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○やさしい子 ◎考える子 ○やりぬく子 ○健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>50周年記念事業を通して、学校、保護者、地域が一体となることができた。様々な取組を通して、子どもたちが落ち着いて生活できる環境を整えることができた。 <課題>児童の学習の基礎・基本の定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立など、家庭との連携も含めた学力の向上において課題となることが多かった。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得 ・東京ベシソグドリルを活用した既習事項の習得 ・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上プロジェクト(朝学習、ランチスタディ等)レベル別個別指導の確立 ・東京ベシソグドリルを活用した既習事項の習得 ・ミニソンドを活用した予習・復習の取組 ・「江戸川っ子 study week」による家庭学習の推進	・毎学期実施する診断テストによるCD層の減少 ・学習に関するアンケート項目の自己評価において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・学習に関するアンケート項目「すすんで学習に取り組む」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上	A	A	○江戸川区の学力向上プロジェクトを推進して授業研究を実施した。60人以上の参加の中、算数のスタンダード授業について深く学ぶことができた。 ○教職員が日常的に授業改善に向けて自主的に話し合う機会が増えた。 ○学力向上委員会が考えた課題に定期的に取組んでいる。 ○「勉強がわかるよ」で肯定的回答91%、「毎日の宿題にすすんで取り組んでいるよ」で肯定的回答88%であった。		
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・定期的に調べ学習の姿勢の定着 ・区立図書館との連携 ・学校応援団による「心ここは活動」の連携と充実	・調べ学習コンクール「読書科コンクール」の作品作成 ・「読書科ノート」を活用した単元的学習の推進 ・研修会の実施(教員向け及び保護者、ボランティア向け)	・調べ学習コンクール「読書科コンクール」に応募する児童の割合80%以上 ・全クラスにおいて「読書科ノート」を使用した授業の実施 ・学習に関するアンケート項目「本を読むのが好き」「調べるのが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上	A	B	○「自分から調べたいことを調べたい」発言と話し合ったりする活動は、すすんで「すすんで」で肯定的回答が90%であった。 ○学力向上委員会で作案した「はてなの本」を継続して全学年で実施することで、児童が疑問を日常的に持つようになっている。 ●本を読むことは、好きですか?で肯定的回答75% ○研究授業を通して、改めて老練の言葉がもたらしていることや見通しを立てることが、専らについて理解を深めることができた。 ●研究授業で学んだことが、また十分に日常に生かされている。今後日々の授業力を高められるが、授業チェックを行っている。		
	(指導力向上) ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業スタイルの確立	・松小授業スタンダードを活用した日常的な授業研究の実施 ・校内研究授業において、全学年授業研究実施	・月に1回以上授業チェック表を活用した振り返りを全教員が実施 ・7回以上の校内研究実施	A	B			
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体力向上を図る日常的な取組の充実	・運動量が確保された体育の授業の実施 ・休み時間等を利用したひのびタイムの実施 ・体力テストの結果による個々の体力目標の設定	・学習に関するアンケート項目「体育や外遊びが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・ひのびタイム35回以上実施 ・ランニング月間やなほとび月間を行い、児童の運動への関心を高め、体力向上につなげる。	A	B	○「体育や外遊びは、すすんで」で肯定的回答が90%であった。 ○アクション月間に形態を変え、取組日数を増やすことで体力向上につなげている。 ●様々な取組を体力テストの結果に反映させることができるように継続していく。		
	(家庭と連携した体力向上の推進) ・家庭における日常的な取組の充実	・親子で取り組むことができる体力アップ事例の紹介	・保護者へのアンケート「体育や外遊びなど、体を動かすことは好きですか?」において、肯定的に回答する保護者の割合80%	A	B	○体力テストの結果と家庭での取組事例を配布して体力増進を図った。 ○「体育や外遊びなど、体を動かすことは好きですか?」で肯定的回答が83%であった。 ○SCに連携をとることで、保護者の関心も高め実施させることができた。 ●その後の指導につなげられた。 ○様々な支援体制を整えることで、学校全体で落ち着いた生活でいることができた。 ●支障のある児童への対応に対して、周りの児童や保護者への理解を促進することが十分にできていた。		
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザイン視点を取り入れた個別に応じた指導の実施・充実 ・エンレージョームの活用促進 ・副翻交流、交流及び共同学習の実施・充実	・生活指導夕会において情報交換による児童理解の促進 ・特別支援研修の実施 ・特別支援校内委員会の充実	・毎週金曜日の実施 ・毎学期1回の実施 ・SC、心理士、SSW等との連携の実施 ・支援を要する児童への個別支援ができたこと報告する教職員の割合90%以上	A	B	○SCに連携をとることで、保護者の関心も高め実施させることができた。 ●その後の指導につなげられた。 ○様々な支援体制を整えることで、学校全体で落ち着いた生活でいることができた。 ●支障のある児童への対応に対して、周りの児童や保護者への理解を促進することが十分にできていた。		
	(障害理解教育の推進) ・障害理解を深める取組の実施	・バリアビリティの交流、障害理解を深める授業等の実施 ・ポッチャによるパラスポーツの理解と交流	・4年生におけるバリアビリティの交流、障害理解授業の実施 ・3年生、4年生においてポッチャを体験する児童が80%以上	A	B	○3年生と4年生で外部講師を招いて、シニアイングリッシュ体験、4年生への手話教室を行うことで、理解を深めることができた。 ●ポッチャ体験を日常化することは、できていない。		
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決	・SC他関係機関と連携した行内体制の確立 ・年3回以上のいじめ防止に関する授業の実施 ・年2回のhyper-QUの実施と研修を通じた活用 ・充実	・SCとの週1回の情報交換会の実施 ・学校生活に関するアンケート項目の「いじめは絶対にしてはいけない」に関して、肯定的に回答する児童の割合が100% ・1回目のhyper-QUの結果より、2回目において満足している児童数の増加	A	B	○「いじめは絶対にしてはいけない」で肯定的な回答100%であった。 ○hyper-QUの2回目の結果がまだである。 ○定期的にいじめに関するSC研修を実施した。 ●保護者のアンケートでは、いじめへの取組に対して肯定的でない意見が6%あった。		
	(人権尊重の精神の育成) ・学校生活の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上	・松小スタンダード4人として●の徹底 ・学期1回の「松っ子週間」による基本的な生活習慣の充実 ・SNS家庭ルールの作成と学期1回の確認週間の実施	・学校生活に関するアンケート項目「学校が楽しい」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の挨拶に関して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目「SNS家庭ルールを守っている」で、肯定的に回答する児童の割合が70%以上	A	B	○「学校が楽しい」で肯定的回答が90%であった。 ○「十分にできている」で肯定的回答が91%であった。 ○「家庭ルールを守って、使っていますか?」で肯定的回答が72%であった。 ●SNSに関するトラブルが何度もあった。次々と対策を実施したが、家庭との連携を含め、未然対策が		
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページの週1回以上の更新 ・年4回の学校公開の実施	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信について、肯定的に回答する保護者の割合が80%以上	A	A	○学校公開を人数制限など無く、4回実施することができた。		
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回の学校関係者評価の開催 ・江戸川区教育施策に基づいた重点項目の設定 ・学校評議員による定期的な授業参観の促進	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	A	B	○学校評議員に事前提示をして、関係者評価の取組内容を設定することができた。江戸川区の教育施策を受けて、重点項目を設定し、取り組むことができた。		
特色ある教育の展開	(地域の一員としての自覚の育成) ・愛校心を醸成する教育活動 ・計画的な地域学習の実施 ・防災教育の実施	・「実なる木」活動の充実 ・近隣の小・中学校、福祉施設、病院と連携した教育活動の実施 ・PTAと連携した災害対策教育の実施	・学校生活に関するアンケート項目の地域に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の災害に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上	B	B	○「地域のお祭りや行事があったら、参加する」で肯定的回答が80%であった。 ●災害が起きた時に、どのように対応するか、お子さんとの話し合いが決められているので肯定的回答が61%であった。 ●定期的に開催した教育活動が定着してきている。		
	(心の教育) ・自他を含めた全ての生き物の命を大切にすることの育成	・なかよし班を中心とした全児童によるヤギの飼育 ・各学年の発達段階に応じた「実なる木」「ヤギ」と触れ合う活動の実施	・学校生活に関するアンケート項目の「生き物のお世話をするのは好き」「動物のお世話は生命尊重に必要である」に対して、肯定的に回答する児童と保護者の割合が70%以上	B	B	●「生き物のお世話をすることは、好きですか?」で肯定的回答が89%であった。○「動物のお世話は生命尊重に必要である」で肯定的回答が98%であった。		
	(学校統合に向けた取組) ・2年後の統合に向けた取組の実施	・鹿骨小学校との合同遊びの実施 ・閉校式実行委員会による準備 ・統合に向けた環境の整備	・各学年1回以上の合同遊びの実施 ・2校の教職員における統合会議の実施(8月以降2回程度)	B	B	○3学期に委員会を立ち上げる。 ●合同遊びは、今後計画して実施する。		
	(働き方改革) ・教員の勤務環境の改善 ・PTAの任事内容の削減	・マイ定時退勤日の設定 ・勤務時間の短縮 ・行事への手紙の軽減、広報誌、手紙の電子化	・週に2回以上定時退勤を実行した教職員70% ・1月の残業時間が80時間を超える教職員が0人 ・保護者へのアンケートにおいてPTAの任事内容の削減に対して、肯定的に回答する児童と保護者の割合が70%以上	A	B	○PTAの任事内容を削減に対しては、PTA役員による話し合いでは肯定的な意見が出ている。 ●定時退勤日を実行した教職員が70パーセントいた。残業時間が80時間を超える教職員は、2学期は多い突き22名いた。		